

実施年度	: 2024 (2025 入試) 年度
試験日	: 2024 年 10 月 19 日
入試種別	: 大学院 (修士課程) 自己推薦入学試験問題
学部・研究科	: 実践真宗学研究科
科目名	: 専門科目

【解答又は解答例】

1

(1) 解答例

二河白道の譬喩。浄土往生を願う衆生が信心を得て往生していくすがたを示す、善導が『観経疏』「散善義」の三心釈で説いた譬喩。水・火の二河は貪欲・瞋恚の煩惱を、二河の間の白道は清浄な信心をととえている。

(2) 解答例

真実信心の利益をいう現生十益の一として、道綽『安楽集』の説示により親鸞が示した語。信心を得た衆生は、念仏する中におのずと阿弥陀仏の大悲を行じていく身となることを示す。

2

(1) 解答例

書き下し：かならず超絶して去つることを得て、安養国に往生して、横に五悪趣を截り、悪趣自然に閉ぢん。道に昇るに窮極なし。行き易くして人なし。その国逆違せず、自然の牽くところなり。

意識：必ずこの生死の流れを超え離れて浄土に往生し、ただちに輪廻を断ち切って、迷いの世界に戻ることなく、この上ないさとりを開くことができる。浄土は往生しやすいにもかかわらず、往く人がまれである。しかしその国は、間違いなく本願のはたらしのままだに、すべての人々を受け入れてくださるのである。

(2) 解答例

書き下し：如来、世に興出したまふゆゑは、ただ弥陀の本願海を説かんとなり。五濁悪時の群生海、如来如実の言を信ずべし。

意識：如来が世に出られるのは、ただ阿弥陀仏の本願一乗海の教えを説くためであ

る。五濁の世の人々は、釈尊のまことの教えを信じるがよい。

(3) 解答例

意識：阿弥陀仏の本願のはたらきで回向された真実の信心を得る人は、摂め取って決して捨てないという利益により、等正覚の位に至るのである。

3

当該問題は、宗教的実践に関する受験生の知識・体験・姿勢等を総合的に問うものであり、その解答は一義的でなく解答例の提示にはなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。

採点は、以下の点を踏まえて総合的に評価する。

- ・ 解答の字数が設問の指示に従っていること。
- ・ 設問文の内容を正しく要約できていること。
- ・ 自身の考えが設問の指示を踏まえて述べられていること。
- ・ 宗教的実践に関する知識・考察が十分と認められること。
- ・ なお、誤字、脱字等、難のある記述には減点を行う。